

ISFJ日本政策学生会議
2006年度 活動報告書

02 | CONTENTS

- 03 | 代表挨拶
- 04 | 団体概要

05 | 2006年度スケジュール

- 05 | 参加ゼミ説明会とは
- 05 | 参加ゼミ説明会
- 06 | ISFJ勉強会とは
- 06 | 第一回勉強会[東日本]
- 07 | 第二回勉強会[東日本]
- 08 | 第三回勉強会[東日本]
- 09 | 事前勉強会[西日本]
- 10 | ISFJ中間発表会とは
- 10 | 中間発表会[東日本]
- 12 | 第一回中間発表会[西日本]
- 13 | 政策シンポジウムとは
- 13 | 政策シンポジウム2006

14 | 政策フォーラム

- 14 | 政策フォーラム2006 企画概要
- 15 | 政策フォーラム2006 分科会Aゲスト
- 16 | 政策フォーラム2006 分科会Bゲスト
- 17 | 政策フォーラム2006 分科会Cゲスト
- 18 | 政策フォーラム2006 表彰

- 19 | 財務報告
- 20 | 機関誌プロジェクト
- 21 | 論文審査委員会と特別顧問委員会
- 22 | 2007年度へ向けて
- 23 | 参加大学・研究会一覧

代表挨拶

皆様、こんにちは。

ISFJ日本政策学生会議、第11期代表を務めております、澤村帝我です。



私たちISFJの理念は、“学生の政策提言による、自分達の望む社会の実現”です。この理念をまっとうすべく、“政策市場に通用する、政策論文の執筆”と“政策論文の効果的な対外発信”と

いう2つの使命を掲げ、参加者と運営が一丸となって、2006年も、様々な事業に取り組んできました。たとえば、複数回にわたる勉強会、報告会、そして関西で開かれた政策シンポジウムの企画・運営を通じて、参加研究会の議論・討論の場を創出し、よりよい政策論文が書けるよう、工夫を凝らし実践して参りました。

その一方で、大学教授、官僚や政治家、シンクタンクの研究者、そして幅広い社会人を相手に、学生の考えを政策論文にしてぶつけるべく、政策フォーラムを主催致しました。政策フォーラムでは、元郵政民営化担当大臣の竹中平蔵氏やマネックス証券CEOの松本大氏をはじめ多くのゲストに参加頂き、また何百人もの参加者を動員することができ、活発な議論が行われました。さらに、2006年の試みとして団体機関誌『ISFJ Journal』を二度行うとともに、団体出版本の『学生からの政策提言2006』を発行致しました。これらの活動を通じて、ISFJの政策論文を社会へ発信し、その中でフィードバックを得られるよう、発信活動に取り組んで参りました。

11年間という活動の中で、他の学生団体には類を見ない大きさの組織としてなり、社会に対する知名度も序々に大きくなってきていることを日々感じている次第です。しかし同時に、ISFJ自らが旧体制となり、活動自体が慢性化する恐れを抱えていることを、常に自覚しなければなりません。初心を忘れず、“学生の政策提言による、自分達の望む社会の実現”という理念に立ち返りながら、組織の新陳代謝を図り、よりよい活動を創出し続けなければなりません。

今後とも、ISFJ日本政策学生会議を、よろしくお願い致します。

フォーラム2006
パンフレット



機関誌

『ISFJ JOURNAL』

団体概要

ISFJは様々な事業展開をしています。その内容は「政策創造」に関わるもの、「政策発信」に関わるものと、大きく2つに分けることができます。

■ 団体名
ISFJ日本政策学生会議

■ 創設
1994年

■ 代表
澤村帝我(2006年度)

■ スタッフ
9大学 18ゼミ 51人
(2007年1月現在)

■ 理念
「学生の政策提言による、
自分達の望む社会の実現」

■ ビジョン
ISFJは政策論文の執筆および政策論文の
対外発信によって、よりよい日本社会の実現
を目指します。



■ 活動紹介

【優れた政策論文を生み出す為の活動】

- ・ 専門家を招待した勉強会の開催
- ・ 論文執筆学生間でのディスカッション実施
- ・ 政策シンポジウム(政策合宿)
- ・ 論文審査委員会の設置

【生み出された政策を社会に伝える為の活動】

- ・ 政策フォーラムの開催
- ・ 機関紙『ISFJ JOURNAL』の発行
- ・ 書籍『学生からの提言』の発行
- ・ 論文データベースのWEB公開

この2つのアプローチを追及することによって私たちは、学生が日本を良くする力になろうと考えています。

2006年度スケジュール

参加ゼミ説明会

ISFJに継続または新規参加予定の学生にISFJの考え・活動内容を理解し、参加していただくことを目的とした説明の場として設けられました。

参加ゼミ説明会

■企画構成

- 第1部 ISFJの説明
- 第2部 昨年度参加者による体験談
- 第3部 座談会

■開催日時

- 6月10日(土) 15:00～17:20
- 6月17日(土) 14:00～16:00
- 6月18日(日) 14:00～16:00

■開催場所

- 早稲田大学西早稲田キャンパス
- 同志社大学今出川キャンパス
- 大阪大学豊中キャンパス

■参加ゼミ・大学・学生数

12大学 23ゼミ 138人

■参加ゼミ説明会の目的と概要

ISFJに参加を検討しているゼミに対し、理念と活動内容の詳細を伝えるための明会です。例年、全国のゼミの活動のスタート時期である4～6月に実施しています。ISFJでは、提供するプログラムに沿って、一年間をかけて政策提言をしていくゼミを募集するための活動を「ゼミ渉外」と呼んでいます。ゼミ渉外活動は、日本全国のゼミにISFJの活動内容にご理解いただくとともに「学生の政策提言によって社会を変えていく」という理念に共感いただき、ともに政策分析・政策提言に取り組んでいく学生やゼミの輪を広げていくことを目的としております。このゼミ渉外活動の一環として、全国のゼミを一同に集め、大々的に説明を行うイベントが参加ゼミ説明会です。

■企画責任者より

従来の説明会は運営側から言いたいことを学生に一方向的にしゃべるだけという形式になっていましたが、今年は座談会を設けることにより、学生のほうから質問がしやすい場が提供できた。

これにより参加学生がISFJでの活動の単純なイメージのみならず、それに伴う苦勞・それを乗り越えた達成感などの生の声も得ることができ、若い情熱をもった学生にいい刺激を与えることができたのではないかと。



参加ゼミ説明会の様子



2006年度スケジュール

勉強会

ISFJ勉強会とは、ISFJの参加ゼミに対し、政策立案・提言の実現可能性を高めてもらうための勉強会です。今年度は7～11月に実施しました。政策提言論文の政策フォーラムでの発表に向けて、発表の方法を身につけることを目的とした。具体的には、時間配分の仕方、分かりやすい話し方、パワーポイントでの見やすいスライドの作り方などである。政策フォーラムの前にプレゼンテーションの場を設けることで、政策フォーラムでより分かりやすいプレゼンテーションがなされることを期待した。

■ISFJ勉強会目的と概要

ISFJでは政策提言論文の質を大きく「実現可能性」「発想の自由さ」「分析の精度」の3点と捉えており、これらの要素を満たしながら政策論文を書き上げ、12月の政策フォーラムでインパクトある提言を行なうことが参加ゼミの目標となっています。

そして、これらの要素のうち、主に「分析の精度」の向上を狙いとして、ロジカルシンキングの習得、意見交換による問題意識・現状分析の構築、プレゼンテーション技法の習得、などを通して、様々なノウハウを学ぶ場がISFJ勉強会となっています。

具体的には、各方面から専門家の方をお迎えし、レクチャー形式ないし発表形式で専門スキルを習得するとともに学生同士の議論によって各テーマに理解を深める機会を提供しています。

また、ISFJの中で重要な位置を占める政策提言のための論文を書く流れの中で最も重要だと考えられるのが問題意識である。そこで第一回勉強会では論文の中での問題意識の重要性を参加ゼミ生に理解してもらうとともに、問題意識をたて、それを質の高いものにするために必要なロジカルシンキング、特に仮説検証を習得してもらうことを目的とした。



第一回勉強会[東日本]

■企画構成

第Ⅰ部 「勉強会の意義について」

第Ⅱ部 「問題意識の重要性について」

第Ⅲ部 「ロジカルシンキング(仮説⇒検証)を身につける」

■開催日時

2006年7月2日(日) 13:00～18:00

■開催場所

慶應義塾大学・三田キャンパス南校舎

■参加ゼミ・大学・学生数

11大学 25ゼミ 109名

■参加ゲスト一覧(計4名)

第Ⅱ部 戸崎肇 様 (明治大学商学部教授)

第Ⅲ部 池田慈生 様 (アブラハム・グループ・ホールディングス株式会社取締役)

桜井政和 様 (税理士法人トーマツ東京事務所)

西山敏樹 様 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究講師)



■企画責任者より

初めての勉強会の企画で、何もわからない中で試行錯誤の繰り返しでした。

2006年度スケジュール 勉強会

第二回勉強会[東日本]

■参加ゲスト一覧(計17名)

【第二部 講演ゲスト】

竹中 恵実 様(中央大学総合政策学部横山彰研究会4年、第二部講演)
鳥居 長英 様(中央大学総合政策学部横山彰研究会4年、第二部講演)



【第三部 分科会ゲスト】

戸崎 豊 様(経済産業省資源エネルギー庁国際課経済産業事務官、産業競争A分科会)
庄司 昌彦 様(国際大学GLOCOM研究員、産業競争B分科会)
麻生 良文 様(財務省財務総合政策研究所総括主任研究官慶應義塾大学法学部客員教授、
社会保障分科会)
戸田 淳仁 様(慶應義塾大学・経済学部助手、雇用分科会)
田畑 壽邦 様(三菱UFJリサーチ&コンサルティング総合相談部部長代理、社会保障・雇用分科会)
平塚 二郎 様(環境省総合環境政策局環境保健部企画課化学物質審査室生態影響審査係長、
環境分科会)
藤岡 隆雄 様(金融庁前検査局政策係長(現在他省庁出向中)、金融分科会)
津田 夏樹 様(財務省主税局総務課総務係長、財政分科会)
野田 顕彦 様(慶應義塾大学大学院商学研究科、財政分科会)
西山 敏樹 様(慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究講師
兼 財団法人地域開発研究所客員研究員、都市交通分科会)
片桐由希子 様(慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程
同大学21世紀COEプログラム「次世代メディア・知的社会基盤」研究員(RA)、
都市交通分科会)
小山 展弘 様(財団法人松下政経塾第27期生、地方経済分科会)
中澤 克佳 様(慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程、地方経済分科会)
千田勝一郎 様(財団法人松下政経塾第26期生、国際関係分科会)
土屋 貴裕 様(一橋大学大学院経済学研究科修士課程
慶應義塾大学SFC研究所所員、国際関係政策分科会)(順不同)

■企画責任者より

1部 ISFJの目指す論文とはどういったものか、またその評価基準や審査組織についての説明を行なった。この評価基準を知ることで、ISFJの目指す論文について理解が深まったのではないだろうか。

2部 中央大学横山彰研究会竹中様、鳥居様から昨年度の最優秀論文を現状分析に厚みを持たせた発表と、論文作成のアドバイス、参加ゼミからの質問という形式で行なわれた。参加ゼミからの積極的な質問が目立ち、「昨年の最優秀論文の発表ということで、とても刺激になった」、という声が多かった。

3部 今年度初めて、各研究会の論文の中身を題材とした。各研究会の「研究方向性報告書」の発表を中心に、ゲストコメンテーター・各研究会間の意見交換を通じてよりよい論文を作成するための時間を設けた。専門家からのコメントをいただくことで、それまで考えていなかった視点が指摘されるなど、満足度が高かった。

2006年度スケジュール 勉強会

第三回勉強会[東日本]

■企画構成

特別企画 就職活動のための自己分析

第一部 講演～プレゼンテーションとは何か～

第二部 プレゼンテーション

■開催日時

11/26(日) 11:30～17:20

■開催場所

青山学院大学 青山キャンパス

■参加ゼミ・大学・学生数

8大学 13ゼミ 56名



分科会での論文発表

■参加ゲスト一覧(計9名)

- 小沼憲一郎 様 (住商リース株式会社 人事部 課長)
- 堀 晃子 様 (住商リース株式会社 人事部 主任)
- 豊田健作 様 (住商リース株式会社 人事部)
- 高田貴久 様 (プレセナ・ストラテジック・パートナーズ代表取締役外資コンサル.com 代表)
- 胎中康幸 様 (NEC Corporation. UNIVERGEソリューション推進本部SI部)
- 木村智浩 様 (株式会社 ガイアックス経営企画部)
- 田畑壽邦 様 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング 総合相談部部長代理)
- 山田なおこ 様 (杉並区議会議員)
- 山田 修 様 (産業カウンセラー CDA)

■企画責任者より

第一部の講演でプレゼンテーションの方法について学び、第二部の分科会で実際にプレゼンテーションを行うという形式を取った。第一部では、昨年度も講演をいただいた高田貴久様から、相手に伝わりやすいプレゼンテーションについて、論理展開など基本的なポイントについてお話いただいた。第二部のプレゼンテーションの実践ではゲスト・参加者間のコメントや議論も伝え方に焦点を絞って、どうしたらより良くなるかについての意見交換が行なわれた。また第一部に先立ち、ISFJ参加者が大学3年生を中心であることも考慮し、これからの就職活動に向けての自己分析講座を協賛企業である株式会社住商リース様に行なっていただいた。満足度も高く、就職活動を始めるキッカケとしてもとても有意義なものだったのではないだろうか。

2006年度スケジュール 勉強会

昨年度論文発表、基調講演、グループワーク等により、論文の質の向上、参加者交流の場の2点を目指しました。

■ 事前勉強会[西日本]

■ 企画構成

- 第Ⅰ部 昨年度論文発表、基調講演
- 第Ⅱ部 グループワーク
- 第Ⅲ部 交流会

■ 開催日時

2006年7月29日(土) 13:00 ~ 19:00

■ 開催場所

- 京都市左京区吉田本町 京都大学 文学部
- 第Ⅰ部 文学部新館第3講義室
- 第Ⅱ部 同 第1講義室、第2講義室
- 第Ⅲ部 吉田南キャンパス内 吉田食堂



■ 参加ゼミ・大学・学生数

12大学 21ゼミ 103名

■ 参加ゲスト一覧(計8名)

- 坂平 海 様 (京都大学大学院 経済学研究科 修士課程)
- 水野 成容 様 (大阪ガス株式会社近畿圏室)
- 東 一洋 様 (日本総研 研究事業本部創造都市戦略クラスター主任研究員)
- 東 博暢 様 (日本総研 研究事業本部創造都市戦略クラスター研究員)
- 寺澤 昌人 様 (京都市役所 理財局財務部財産監理課)
- 萩原 一恵 様
- 小川 嘉幸 様 (京都府庁 出納管理局資産活用プロジェクト)
- 保井 大進 様 (豊中市役所 市政研究所 研究員)

■ 企画責任者より

今回の事前勉強会は「政策提言するとは?」「データを用いて実証するとは?」という2点に絞って、企画いたしました。昨年度優秀論文発表、基調講演、グループワーク等を通じて、「政策提言とは何か、論文作成に必要なものは何か」を理解し、「データを読み取る力」、「意見を一つにまとめる力」を養い、今後の論文作成に役立てることができたならば、幸いです。

また、「交流の場」といたしまして、他大学の学生や実務経験者など、普段接する機会のない方々と議論し、意見を交換することで、参加して頂く皆様が政策提言をインスピレーションするためのきっかけにもなったのではないかと思います。

2006年度スケジュール

中間発表会

中間発表会[東日本]は、(1)研究成果の発表と(2)政策提言の実務面について学ぶことで、12月16日・17日の政策フォーラムでの発表に活かしてもらうことを目的に行われました。

ISFJ中間発表会[東日本]

■目的と概要

政策立案のための問題意識・現状分析を行ってきた参加ゼミを対象に、これまでの研究成果の確認をすると共に、これからの政策提言について学ぶことを目的としたものです。例年、論文執筆期の間以降(10～11月)に実施しています。

ISFJでは、政策提言論文の質を大きく、「実現可能性」「発想の自由さ」「分析の精度」の3点で捉えています。このうち「実現可能性」と「発想の自由さ」の間のバランスは非常に重要なものとなります。発想を重視すれば学生らしいユニークな政策を提言できますが、それと同時に実現は難しいものになってしまうことでしょう。中間発表会ではこの点を重視し、「実現可能性」を学ぶことで今後の政策立案方針を考える場として考えています。

参加ゲスト一覧(計27名)

■エネルギー政策分科会

安藤晴彦 様 (経済産業省 資源エネルギー庁 新エネルギー対策課長)
 千田勝一郎 様 (松下政経塾 第26期生)

■環境政策分科会

中山元太郎 様 (環境省 総合環境政策局環境計画課課長補佐)
 平塚二郎 様 (環境省 総合環境政策局環境保健部企画課化学物質審査室生態影響審査係長)

■金融構造改革分科会

藤岡隆雄 様 (金融庁前検査局政策係長(現在他省庁出向中)、金融分科会)
 池尾和人 様 (慶應義塾大学 経済学部 教授)

■国際関係政策分科会

田中紀子 様 (外務省 国際情報統括官組織第三国際情報官室)
 田幸大輔 様 (社団法人 経済同友会 政策調査マネジャー)

■企画構成

第一部 ゲスト講演～実務面から見た政策提言～
 第二部 分科会別中間発表会

■開催日時

2006年 10月 8日(日) 13:00～17:20

■開催場所

慶應義塾大学 三田キャンパス

■参加ゼミ・大学・学生数

12大学 52ゼミ 250人

2006年度スケジュール 中間発表会

中間発表会分科会ゲスト

■財政政策分科会

- 神野貴史 様 (財務省 主税局)
- 上田昌史 様 (国際情報学情報社会相関研究系助手)
- 白石浩介 様 (三菱総研政策・経済研究センターシニアエコノミスト)

■マクロ・金融政策分科会

- 折谷吉治 様 (明治大学 商学部 教授)
- 森本喜和 様 (日本銀行総務人事局人事運用担当)

■産業競争政策①分科会

- 高山智司 様 (衆議院議員)

■産業競争政策②分科会

- 上村千明 様 (日本経済研究センター主任研究員)

■社会保障分科会

- 佐藤大介 様 (東京医科歯科大学大学院 博士課程)
- 坂野真理 様 (松下政経塾 26期)
- 菅沼隆 様 (立教大学 経済学部 教授)

■都市交通政策分科会

- 本間由紀子様 (日本アイビーエム株式会社)

■地域経済政策①分科会

- 田中健 様 (大田区区議会議員)
- 牧瀬稔 様 (財団法人地域開発研究所研究部研究員)

■地域経済政策②分科会

- 山田なおこ 様 (杉並区議会議員)
- 石川靖 様 (タイ日本大使館一等商務書記官)

■労働雇用政策①分科会

- 反町勝夫 様 (株式会社東京リーガルマインド代表取締役社長 LEC学長)
- 伊藤裕一 様 (慶應義塾大学 総合政策学部 講師)

■労働雇用政策②分科会

- 山田修 様 (日本キャリア開発協会会員 キャリア・デベロップメント・アドバイザー)
- 田畑壽邦 様 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング 総合相談部 部長代理)



■企画責任者より

夏休み終わりをこれまでの問題意識・現状分析から政策提言を考え始める時期と想定し企画を行った。第一部では、法務・予算といった政策の実務面について学ぶため金融庁から藤岡隆雄さまに講演をしていただいた。第二部では、分科会ごとに分かれてこれまでの研究成果を報告し、学生・ゲスト双方により活発なディスカッションが行われた。

2006年度スケジュール

12月のフォーラムにおいて実際に発表をしていただく論文に沿った構成の中間報告書を参加ゼミに3回にわたって提出していただき各グループの進捗状況を管理するとともに、さらにその中間報告書を用いて政策フォーラムを想定した発表ができる場を設けることで質疑応答・講評による論文の質的向上を目財しました。

中間発表会[西日本]

■企画構成

第1回 現状・問題意識まで

第2回 理論・分析まで

第3回 政策提言まで

構成は発表・質疑応答・ゲストコメントから成る。

■開催日時

(各グループが2日間のいずれかに参加)

第1回 10月9日(祝)、15日(日) 13:00~18:00

第2回 10月28日(土)、29日(日) 13:00~18:00

第3回 11月11日(土)、12日(日) 13:00~18:00

■開催場所

大阪大学
同志社大学

■参加ゼミ・大学・学生数

15大学 26ゼミ 150名

■企画責任者より

このイベントを行うにあたって、41ある論文のグループを全部で12グループに分け、小グループによるインゼミのような形式を取った。これにより参加学生同士の議論を活性化するとともに、ゲストの有識者との密なコミュニケーションを可能にした。

さらに事前に参加ゼミの代表者を集め、参加学生の不安・期待など生の声を汲み取る機会や、関西大学助教授前川聡子様による論文の書き方指導講座を設けた。

以上の2点の工夫により参加学生が論文を書くにあたって本当に望ましい形でのサポートを充実できたといえる。

■参加ゲスト一覧(計19名)

東孝彦 様 (堺市教育センター 主管)

石田祐 様 ((財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究調査本部安全安心社会研究所研究員)

上田昌史 様 (国立情報学研究所 助手)

梅村仁 様 (尼崎市役所)

大谷咲太 様 (大阪大学 本間研究室 修士課程)

小川亮 様 (大阪大学 本間研究室 博士課程)

北浦義朗 様 (財団法人 関西社会経済研究所 政策提言グループ)

桑山順一 様 (大阪大学 山内研究室 修士課程)

佐々木勝 様 (大阪大学 経済学部 助教授)

葉原壽人 様 (京都産業大学 経済学部 教授)

濱田裕章 様 (同志社大学 伊多波研究室 修士課程)

林宏昭 様 (関西大学 経済学部 教授)

肥後信恵 様 (近畿経済産業局 地域経済部 産学官連携推進課)

前川聡子 様 (関西大学 経済学部 助教授)

松本茂 様 (関西大学 経済学部 助教授)

水野哲昭 様 (近畿財務局 兼 大阪大学山内研究室 博士課程)

本西泰三 様 (関西大学 経済学部 助教授)

柚木孝裕 様 (京都大学 経済学研究科 博士課程)

李湊 様 (京都産業大学 経済学研究科 田中寧研究室)



2006年度スケジュール

政策シンポジウム

■企画概要

政策シンポジウムは論文執筆から少し距離を置いて、「社会への問題意識を研ぎ澄ませること」および「学生の創造性を刺激し、論文作成に活かすこと」を目的として、毎年夏に関西で開催されている、合宿形式のイベントです。

ISFJでは、政策提言論文の質を大きく「実現可能性」「発想の自由さ」「分析の精度」の3点で捉えています。これらの要素のうち、「発想の自由さ」というISFJが最も重視する部分に焦点をあて、これから政策提言に取り組もうとしている学生の創造性を刺激する場が、政策シンポジウムであります。

論文執筆の初期であること、また、夏期休暇中で運営と参加学生の双方が比較的準備に余裕を持ちやすいことから、毎年異なるテーマのもと、ISFJの先進的な企画・試みを実践する場としても位置づけています。

今年度は「RE:『日常』」をテーマとして掲げ、普段は見過ごしている何気ない日常の中にも日本について考えるヒントが溢れている、ということに参加者の皆様が気付く「きっかけの場」を提供しました。



■企画構成

基調講演×3
京都市内を中心とした
グループワーク、およびその発表

■開催日時

9月1日(金)～3日(日)

■開催場所

ホテル本能寺会館・京都大学

■参加ゼミ・大学・学生数

18大学 29ゼミ 110人

■参加ゲスト一覧(計4名)

岸博幸 様 (総務大臣秘書官)
後藤徹 様 (クリエイティブディレクター)
武田双雲 様 (書道家)
武島正敏 様 (画家・芸術家)

■企画責任者より

日本のことや政策のことについて考えるのは何も論文を書いたり、新聞を読んだりするときだけではないはず。今まで何となく過ごしてきた、気付かずにいた、ありふれた日常の中にこそ考えるヒントは潜んでいるに違いない。このようなコンセプトの元に今年度のシンポジウムは行われました。

基調講演やグループワークを通じて参加者一人ひとりが何気ない日常をreflect(振り返る、考え直す)することが出来たのではないのでしょうか。

政策フォーラム2006

政策フォーラムとは、毎年12月期に行われるISFJの集大成のイベントです。この政策フォーラムで、一年間参加ゼミが研究してきた政策提言を発信します。政策フォーラムでは全国から多くのゼミが一堂に会します。また、参加ゼミ学生に加え産官学政の各界の有識者もゲストコメンテーターとして参加します。参加ゼミ学生はこの政策フォーラムにおいて他大学他ゼミの学生、各界有識者が同席している場で政策提言発表を行い、それを踏まえた上でその場にいる産官学政のゲストと学生でディスカッションをしていただきます。

■政策フォーラムの目的・位置づけ

ISFJの理念とは、「学生の政策提言を通じた、自分たちの望む日本社会の実現」です。使命としては、政策関係者をうならせるような論文を書くこと、その論文を発信することの二点が挙げられます。以上の理念・使命をモットーにISFJでは年に数回の勉強会などを行い「論文の質」の向上をはかってきました。

その中で政策フォーラムの目的・位置づけとしては二点挙げられます。一点目は、勉強会などを通じて作成された論文について発表する場、つまりは理念である学生の意見を社会に発信する場です。二点目としては、このフォーラムで提言を行い、そこで全てが終わるのではなく、産官学政の各界の有識者とのディスカッションを踏まえて、さらなる論文の向上、つまりは「通過点」としての位置づけの二点です。総じて、政策フォーラムとは産官学が横断的に議論を行える場所を提供することで、学生が社会へ向けて政策提言をし、社会を変えてゆこうというISFJの理念を達成しようということ、そして参加ゼミの更なる論文の質向上の通過点というのが目的・位置づけとなります。以上の理由から、政策フォーラムでは下記のものを開催します。

分科会とは、参加学生が社会【産官学政の各界の有識者】に自身の政策を提言する場である講演会、つまり、政策に携わっている方のお話を聞き、参加ゼミ生の今後の政策提言論文執筆活動の足かりとする場である。

タイムテーブル

第1日目(12月16日)

10:00~10:20	開会式(西校舎ホール)
10:20~10:30	準備・休憩
10:30~12:00	パネルディスカッション
12:00~12:50	移動・準備・昼食休憩
12:50~15:50	分科会A
15:50~16:10	移動・準備
16:10~17:10	講演 I
17:10~17:20	諸連絡

第2日目(12月17日)

9:00~9:20	開会式(西校舎ホール)
9:20~9:40	準備・休憩
9:40~12:40	分科会B
12:40~13:00	移動・準備
13:00~16:00	分科会C
16:00~16:20	移動
16:20~17:20	講演 II
17:20~18:20	閉会式

政策フォーラム2006

分科会A

■参加ゲスト一覧(計20名)

- 麻生良文 様 (慶應義塾大学法学部客員教授)
池谷聡 様 (株式会社ウィルシード経営管理部学校教育地域サポート室室長)
伊多波良雄様 (同志社大学経済学部教授)
小澤隆生 様 (元 楽天株式会社執行役員)
穂田誉輝 様 (株式会社カカコム取締役相談役)
熊谷彰矩 様 (青山学院大学経済学部名誉教授)
坂本慶介 様 (国土交通省総合政策局 総務課 課長補佐)
佐藤大吾 様 (NPO法人ドットジェイピー理事長)
白石浩介 様 (三菱総合研究所 シニアエコノミスト)
神野貴史 様 (財務省主税局参事官付財務事務官)
鈴木寛 様 (参議院議員 民主党)
平正明 様 (衆議院議員 自由民主党)
高山智司 様 (民主党政策調査会副会長・国会対策委員会副委員長 法務委員会理事農林水産委員会委員)
田中宏樹 様 (同志社大学政策学部政策学科助教授)
田畑壽邦 様 (三菱UFJリサーチ&コンサルティング 総合相談部 部長代理)
中山元太郎様 (環境省総合環境政策局環境経済課課長補佐)
西山敏樹 様 (慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特別研究講師 兼 財団法人地域開発研究所客員研究員)
本間由紀子様 (日本IBM株式会社 ソフトウェア事業部 ITスペシャリスト)
前川聡子 様 (関西大学経済学部助教授)
山内直人 様 (大阪大学大学院国際公共政策研究科教授)

政策フォーラム2006

分科会B

■参加ゲスト一覧(計24名)

- 石塚真里 様 (三菱総合研究所 主席研究員)
- 今泉亮 様 (資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 新エネルギー対策課企画係長)
- 折谷吉治 様 (明治大学商学部教授)
- 金子敬一 様 (経済産業省通商政策局経済連携課 企画係長)
- 下園剣矢 様 (経済ジャーナリスト)
- 庄司昌彦 様 (国際大学GLOCOM研究員)
- 須賀晃一 様 (早稲田大学政治経済学部教授)
- 関口智 様 (立教大学経済学部専任講師・公認会計士)
- 園田正彦 様 (株式会社三井物産戦略研究所 国土・地域振興室 室長)
- 竹森俊平 様 (慶應義塾大学経済学部教授)
- 田幸大輔 様 (社団法人 経済同友会 政策調査マネジャー)
- 橘秀徳 様 (原口一博代議士政策担当秘書)
- 巽一幸 様 (株式会社フェイス 代表取締役)
- 田中紀子 様 (外務省専門分析員)
- 田中健 様 (大田区議会議員)
- 筑紫正宏 様 (資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部 政策課国際係長(総括担当))
- 中山元太郎様 (環境省総合環境政策局環境経済課課長補佐)
- ペマ・ギャルポ様 (桐蔭横浜大学法学部教授 チベット文化研究所所長)
- 藤井秀昭 様 (三菱総合研究所地球環境研究本部 地球温暖化対策研究グループ主任研究員 シニア・エコノミスト)
- 牧瀬稔 様 (財団法人地域開発研究所研究部 研究員)
- 松野豊 様 (NPO法人ドットジェイピー理事 千葉県流山市議会議員)
- 村田佳寿子様 (桜美林大学北東アジア総合研究所客員研究員)
- 山田なおこ 様 (杉並区議会議員)
- 吉田直樹 様 (三菱総合研究所 地球環境研究本部地域・共生研究グループリーダー主席研究員)

政策フォーラム2006

分科会C

■参加ゲスト一覧(計20名)

- 井口泰 様 (関西学院大学経済学部教授)
- 鶴飼康東 様 (関西大学総合情報学部教授)
- 加部一彦 様 (愛育病院新生児科部長)
- 佐藤大介 様 (“東京医科歯科大学大学院 医療政策学講座 医療情報・システム学研究室 博士課程医療法人社団 心代会 事務部”)
- 庄司昌彦 様 (国際大学GLOCOM研究員)
- 鈴木英敬 様 (内閣官房(副長官補付) 参事官補佐)
- 須田昌弥 様 (青山学院大学経済学部助教授)
- 高田明様 (野村證券株式会社 IBコンサルティング部長)
- 竹内文英 様 (日本経済研究センター主任研究員)
- 千田亮吉 様 (明治大学商学部教授)
- 津田栄 様 (株式会社トラッカーキャピタル取締役)
- 戸崎肇 様 (明治大学商学部教授)
- 戸田淳仁 様 (慶應義塾大学経済学部 助手)
- 梅溪健児 様 (内閣府 大臣官房審議官(経済財政分析担当))
- 波多野淳彦様 (経済産業省大臣官房 政策評価広報課長)
- 久谷與四郎様 (労働評論家)
- 藤岡隆雄 様 (元金融庁前検査局政策係長(現在他省庁出向))
- 松崎隆司 様 (経済ジャーナリスト)
- 三葛敦志 様 (国分寺市議会議員)
- 山田修 様 (産業カウンセラー CDA)

政策フォーラム2006 表彰

ISFJでは参加学生に対し、どのような論文が評価されるのかということを確認に示せるよう、論文の完成度を評価する最優秀論文賞、プレゼンテーションの質を評価するプレゼンテーション賞など各賞を設けています。プレゼンテーション賞に関しては政策フォーラムにお越しいただいた分科会ゲストの皆様、他の賞に関しては論文審査委員会に審査を依頼致しました。

受賞論文のうち、最優秀論文賞とプレゼンテーション賞を受賞した研究会は壇上で特別顧問委員の島田晴雄教授より表彰状を授与され、プレゼンテーションをおこないました。



■本年度 ISFJ表彰

【最優秀論文賞】

論文審査委員によって選出された5本の候補の中から、再度審査を行い、1本の最優秀論文を選出される。

大学名	研究会名	論文テーマ	分科会名
明治大学	千田亮吉研究会	女性の労働供給増加へ向けて	労働雇用政策B

(1論文)

【プレゼンテーション賞】

政策フォーラム当日に分科会ゲストの方々の採点により選出される。

大学名	研究会名	論文テーマ	分科会名
関西学院大学	井口泰研究会	外国人犯罪の諸要因	国際雇用政策

(1論文)

【優秀論文賞】

最優秀論文賞候補5論文のうち、惜しくも最優秀論文に選出されなかった論文を優秀論文賞とする。

大学名	研究会名	論文テーマ	分科会名
大阪大学	山内直人研究会	不動産価格形成にみる住民の防災意識	産業競争政策C
慶應義塾大学	櫻川昌哉研究会	CPIから考察する金融政策	財政政策A
慶應義塾大学	樋口美雄研究会	テレワーク制度拡充による仕事と育児の両立支援	労働雇用政策B
立教大学	唐亮研究会	理想的な日中エネルギー協力の実現	エネルギー政策

(計4論文、50音順)

【特別賞】

全体の完成度において優秀論文とはいえないものの、評価項目4、5、6、7(P審査項目参照)において非常に優れていると審査委員が判断した場合にその論文を特別賞とする。

大学名	研究会名	論文テーマ	分科会名
大阪市立大学	朴一研究会	外国人研修制度の改革	国際雇用政策
関西学院大学	井口泰研究会	外国人犯罪の諸要因	国際雇用政策
京都大学	岩本武和研究会	国際収支の不均衡	国際関係政策
慶應義塾大学	樋口美雄研究会	市町村合併の実証的検証	地域財政政策B
慶應義塾大学	若杉隆平研究会	コンテンツ産業の育成	産業競争政策C
神戸大学	地主敏樹研究会	地域経済活性化による雇用創出	労働雇用政策D
東北大学	西澤昭夫研究会	大学発ベンチャー支援におけるSBIRの役割	産業競争政策A
名古屋大学	多和田眞研究会	東海産業クラスター分析	地域経済政策
明治大学	福田邦夫研究会	新エネルギー開発への道	エネルギー政策
早稲田大学	須賀晃一研究会	若年非正規雇用の職業能力習得機会に関する提言	労働雇用政策A

(計10論文、50音順)

財務報告

ISFJの2006年度の収入は4,163,890円、内訳は企業様からのご協賛金、並びにISFJ参加学生からの参加費用となっております。支出は3,049,092円で、内訳は主に各企画費、広報費となっております。また、次年度への繰越金は、2006年度から実施した会計監査制度による大幅なコスト削減に伴い、1,114,798円と、例年を上回る水準になりました。繰越金は、ISFJ2007春期研修会制度等運営費、並びに2006年度出版費用として次年度予算に割り当てる予定となっております。

※2006年度財務報告書は、関東支部会計・関西支部会計合同で作成致しました。※なお、政策シンポジウムの際に、物品協賛として株式会社大阪めいらく様より5万円のご協賛を頂きました。

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
1.関東参加ゼミ説明会	16,426	1.ゼミ論文参加費	404,000
2.関東第1回勉強会	18,331	2.シンポジウム参加費	1,599,000
3.関東第2回勉強会	14,031	3.協賛金収入	1,489,160
4.関東中間発表会	42,694	株式会社ダイヤモンド・ビッグアンドリ ード	200,000
5.関東第3回勉強会	4,609	住商リース株式会社	200,000
6.1.関西参加ゼミ説明会	47,088	株式会社プロトコーポレーション	199,160
7.関西事前勉強会	16,425	野村證券株式会社	200,000
8.関西シンポジウム	1,570,015	エン・ジャパン株式会社	150,000
宿泊費	1,222,500	株式会社ガーディアンシップ	100,000
懇親会費	69,044	株式会社有斐閣	50,000
ゲスト交通費・昼食費	91,000	株式会社リーガルマインド	50,000
事務備品費	170,229	株式会社リクルート	50,000
雑費	17,242	大阪ガス株式会社	30,000
9.関西中間発表会	38,472	ひかりのくに株式会社	70,000
10.政策フォーラム	479,029	住友生命保険相互会社	30,000
ゲストお礼代・交通費・諸経費	162,163	株式会社関西電力	30,000
優秀論文特典	145,500	松下電器産業株式会社	100,000
表彰状代	40,250	個人協賛	30,000
論文審査費	52,761	4. 利息	58
印刷費	7,500	5. 前期繰越金	671,672
事務備品費	31,330		
雑費	39,525		
11.東西出張費	171,900		
12.広報費	260,059		
ビラ・パンフレット代	153,124		
サイト運営費	4,560		
名刺代	102,375		
14.機関誌費用	260,620		
15.2005年度出版雑費	44,665		
16.運営・渉外費用	64,728		
当期支出合計	3,049,092		
次期繰越金	1,114,798		
支出合計	4,163,890	収入合計	4,163,890

機関誌

■機関誌発行の目的

- ・ISFJの政策論文を政策関係団体に発信する
- ・タイムリーなテーマに対するISFJの考えを定期的に発信する

■第0号機関誌(コンテンツ)

- ・座談会「学生に求められるものとは」
- ・学生企業家の視点
- ・ISFJの活動とは
- ・慶應義塾大学若杉隆平研究会「Asian Currency Basket –Common Currency in Asia -」

■第1号機関誌(コンテンツ)

- ・学校教育に関する大学生意識調査
ISFJ政策フォーラム2006にて参加学生を対象にアンケートを実施
- ・インタビュー
「日本の教育」について首都大学東京理事長高橋宏氏にインタビューを実施
- ・2005年政策フォーラム最優秀政策論文掲載
中央大学横山彰研究会「企業による経済性と社会性の両立」
“容器包装リサイクル法における拡大生産責任のあり方を問う”
- ・ISFJ政策フォーラム2006活動報告



企画責任者より

機関誌発行は今年初めての企画であり、なれない部分が多く、思いのほか時間がかかってしまったのが課題であった。タイムリーな話題を発信するのがこのジャーナルの目的であったが、その趣旨から若干ずれてしまっていたのかもしれない。政策当局者に直接、機関誌を届けることで、学生の政策を発表するチャンスはこの機関誌の発行により広がったと考えられる。

ISFJJOURNAL vol.0

2006年11月22日発行

論文審査委員会と特別顧問委員会

ISFJでは、参加ゼミより提出された論文を、より適正かつ公平に審査するために、大学教授、助教授、民間シンクタンク研究員などの有識者の方々40名程度で組織される論文審査委員会を設けております。

■2006年度論文審査委員会

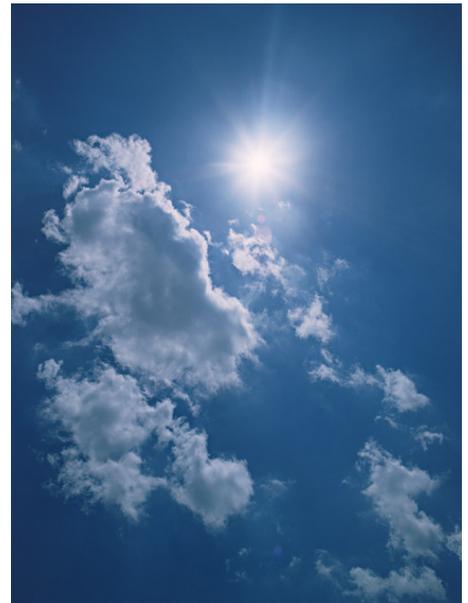
2006年度論文審査委員会委員長

鵜飼康東 教授 (関西大学総合情報学部)

戸崎肇 教授 (明治大学商学部)(50音順)

論文審査項目

1. 論文の体裁
2. 問題意識の独自性
3. 問題意識の重要性
4. 分析結果の独自性
5. 分析の客観性
6. 政策提言の独自性
7. 政策提言の現実性・重要性



■特別顧問委員会

特別顧問委員会は大学教授を中心に組織される委員会で、ISFJの運営や企画、論文審査についてのアドバイスを頂きました。

2006年度特別顧問委員

跡田直澄 教授 (慶應義塾大学商学部)

鵜飼康東 教授 (関西大学総合情報学部)

塩澤修平 教授 (慶應義塾大学経済学部)

島田晴雄 教授 (慶應義塾大学経済学部)

戸崎肇 教授 (明治大学商学部)

本間正明 教授 (大阪大学経済学部)

藤野次雄 教授 (横浜私立大学国際総合科学部)

横山彰 教授 (中央大学総合政策学部)

(50音順)

2007年度へ向けての課題

■理念および使命を追求

本報告書の冒頭にもありましたように、「学生の政策論文を通じた、よりよい日本社会の実現」という理念は、ISFJの存在意義です。理念を達成するために、ISFJは、いかなる事業においても、「政策市場(政策担当者や研究者)に通用する政策論文の執筆」と「政策論文の社会への効果的な発信」を追求しなければなりません。個々の事業を行う上で、必ず理念と使命に立ち返りながら来年度も活動をしていきます。

■論文執筆者と運営者を統合

近年、組織が拡大する中で、ISFJに対する認知度を拡大させると共に、より多くのひとを巻き込むことができるようになりました。ただ、その一方で、小さな組織でないために、参加者と運営で齟齬が生じが出てくる可能性も考えられます。私たちは、常日頃から、論文執筆者と運営委員の分離が起こらないよう、意識して活動に携わります。

■担当教官のコミットメントを強化

各研究会がISFJで論文を執筆する際には、担当教官に論文の監督をしてもらっています。こうした担当教官の役割を強化し、ISFJの活動が円滑に進むように、担当教官には、論文の審査・査読で協力を要請する必要があると考えています。

■対外団体との連携を強化

ISFJが勉強会、報告会、政策シンポジウム、政策フォーラムを開催する上で、外部からのゲストは必要不可欠な存在となってきている。ISFJはこの11年間で多くの有名な政策関係者、研究員、実務家などにご協力を頂いてきました。これからは、こうした協力を組織的な繋がりの中で築くことで、より長期的な関係を構築する中で、政策論文を執筆する必要があるでしょう。

■東西の統一と共に、より充実した事業を計画

私たちは、「政策市場に通用する政策論文の執筆」を達成するために、「論文の質」を向上させる事業を展開する必要があります。「論文の質」とは、「学術論文としての形式」、「問題意識の独自性」、「問題意識の重要性」、「分析結果の独自性」、「分析の客観性」、「政策提言の独自性」、「政策提言の実現可能性」から構成されています。これまでの事業のフィードバックを踏まえ、「論文の質」を向上させるために、「問題発見能力」「問題解決能力」「政策立案能力」に特化した事業を展開していこうと考えています。また、私たちは、「政策論文の社会への効果的な発信」を達成すべく、「政策発信効果」に特化した事業も積極的に展開していきます。さらに、こうした活動を東西の事業で、統一性を強化することで、より組織的な一体感を構築していきます。

以上の様な課題と方針のもと、2007年度も私達は積極的に組織の新陳代謝を図っていきます。対外的に透明性を図り、そこからわかるように、努力して参る次第ですので、今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。

参加大学・研究会一覽

青山学院大学	熊谷彰矩研究会	同志社大学	伊多波良雄研究会
宇都宮大学	中村祐司研究室	同志社大学	田中宏樹研究会
大阪大学	本間正明研究会	同志社大学	八木匡研究会
大阪大学	山内直人研究会	同志社大学	山田礼子研究会
大阪外国語大学	野村茂治研究会	東北大学	西澤研究会
大阪外国語大学	森栗茂一研究会	東北大学	鴨池治研究会
大阪市立大学	朴一研究会	東北大学	近代経済学研究会
関西大学	鵜飼康東研究会	東北大学	工業経済研究会
関西大学	林宏昭研究会	名古屋大学	多和田眞研究会
関西大学	前川聡子研究会	日本大学	岸井隆幸研究会
関西学院大学	井口泰研究会	一橋大学	佐藤主光研究会
北九州市立大学	古賀哲矢研究会	一橋大学	佐藤哲夫研究会
九州大学	細江守紀研究会	明治大学	生田保夫研究会
京都大学	岩本武和研究会	明治大学	齋藤雅巳研究会
京都大学	吉田和男研究会	明治大学	千田亮吉研究会
京都産業大学	田中寧研究会	明治大学	戸崎肇研究会
慶應義塾大学	麻生良文研究会	明治大学	福田研究会
慶應義塾大学	跡田直澄研究会	立教大学	唐亮研究会
慶應義塾大学	大村達弥研究会	立命館大学	言美伊知朗研究会
慶應義塾大学	岡部光明研究会	立命館大学	古川彰研究会
慶應義塾大学	櫻川昌哉研究会	横浜市立大学	鞠重鎬研究会
慶應義塾大学	島田晴雄研究会	横浜市立大学	藤野次雄研究会
慶應義塾大学	竹森俊平研究会	早稲田大学	久保田隆研究会
慶應義塾大学	中澤敏明研究会	早稲田大学	須賀晃一研究会
慶應義塾大学	樋口美雄研究会	早稲田大学	深川由起子研究会
慶應義塾大学	吉野直行研究会	早稲田大学	宮澤節生研究会
慶應義塾大学	若杉隆平研究会	早稲田大学	藪下史郎研究会
神戸大学	石黒馨研究会		
神戸大学	石原享一研究会		
神戸大学	菊地徹研究会		
神戸大学	地主敏樹研究会		
滋賀大学	有馬敏則研究会		
千葉大学	倉阪秀史研究会		
中央大学	飯島大邦研究会		
中央大学	砂川和範研究会		
東京大学	奥野(藤原)正寛研究会		

* 五十音順

(27大学52研究会)

ISFJ日本政策学生会議 活動報告書2006

代表	澤村帝我（慶應義塾大学）
執筆	<p>圓谷耕司（大阪大学） 大久保歩（同志社大学） 小川太史（横浜市立大学） 木村祐介（大阪大学） 小池健太郎（慶應義塾大学） 鈴木淳也（大阪大学） 高柳桂子（明治大学） 土谷顕子（大阪大学） 東本聡史（明治大学） 中安拓雄（慶應義塾大学） 西村憲人（早稲田大学） 本田潤一郎（慶應義塾大学） 前島有吾（慶應義塾大学） 森本尚樹（慶應義塾大学）</p> <p>* 五十音順</p>
編集	東本聡史（明治大学）
発行	2007年3月31日
連絡先	<p>info@isfj.net 上記まで、メールにてお願い致します。</p>